

※特記なき限り下記による。

- 1) 基礎：ベタ基礎 基礎梁外周部=FG1 内部立ち上げ=FG3 耐圧盤=FS1
- 2) 土台・大引： Hem-Fir 2級 404@910 1階床の構造用合板 T=24mm以上
- 3) 縦枠： S-P-F 2級 204 横枠： S-P-F 2級 204
- 4) ラグサ及び梁： S-P-F 2級 2-206~2-212を使用
集成材 E120-F330 404~を使用

特記なきラグサ： S-P-F 2級 2-206

特記なきラグサ受け： S-P-F 2級 1-204

特記なき0.91mを超える開口部両端縦枠はラグサ受け込み S-P-F 2級 3-204
縦枠に配置する金物は上部・下部同等とする

- 5) 2. 3階床梁： S-P-F 2級 2-210~ 集成材はE120-F330 404~
- 6) 2. 3階根太： S-P-F 2級 1-210@455 (ロフト根太は伏図による)
- 7) タルキ： S-P-F 2級 1-206@455
- 8) 床材： 構造用合板 t=15 (釘打ち間隔は枠組壁工法標準図 S5 参照)

端部金物は、
標準図参照

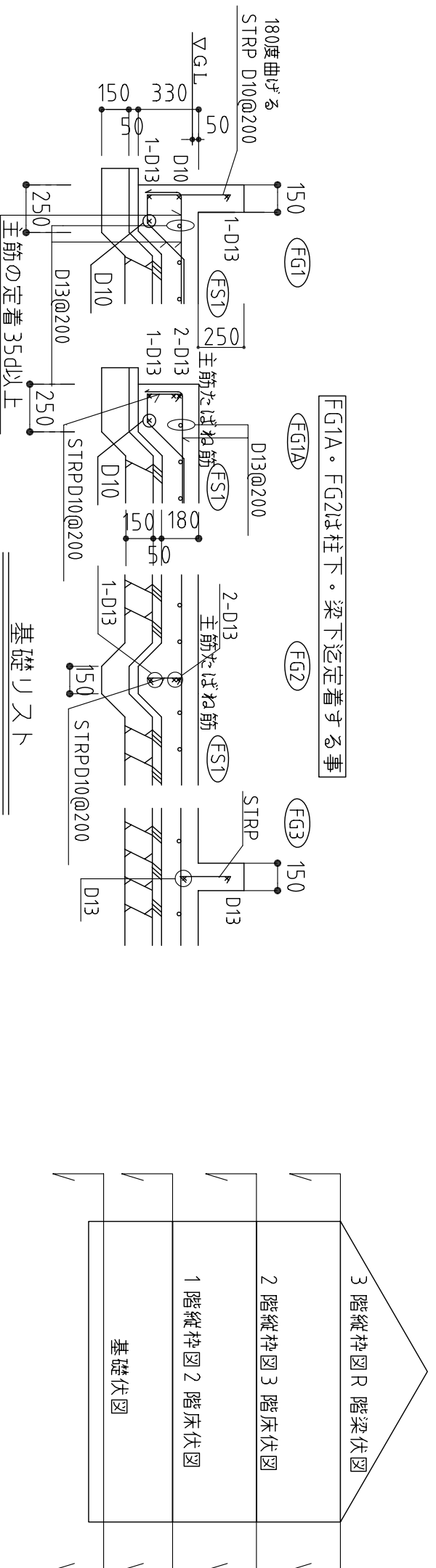
長期許容地耐力 FE=29.0KN/m² コンクリートFC=210
鉄筋 SD295

※工事着工前に敷地内にて地盤調査を行う事

※その他記載なき仕様は、標準図 S1~S6 及び住宅金融公庫共通仕様書による。

- 9) 開口部： 両端・出隅・入隅は、帯金物 S-65を配置する標準図 S5 参照
1階下部は 両端CPT。出隅・入隅は、CPLの補強も可
(バルコニー部分は除く)
- 10) 仕口に配置する引き寄せ金物は、標準図参照。
- 12) 1FのHDBは、全て基礎に緊結し、当該階の HDB は枠頭・枠脚に配置する。

耐力壁	耐震壁、構造用合板の組み合わせ
△W3 壁倍率3.0	せっこうボード12mm (JIS A 6901-1979) の片面貼り
△W3.5 壁倍率3.5	(特類) 構造用合板一級厚9mm以上の片面貼り
△W5 壁倍率5.0	(特類) 構造用合板一級厚9mm以上+せっこうボード12mm (JIS A 6901-1979) 釘打ち間隔は枠組壁工法標準図 S5 参照。



工事名 鶴ヶ峰 2号棟 新築工事	管理者	設計者	担当者	図面名	図面NO S
	日付	日付 H17.7.18	日付	基礎伏図・各階伏図	
備考					縮尺 S=1/50